

第5回久留米市総合計画審議会（要旨）

1 開催日時

令和2年2月4日(火) 15時00分～16時00分

2 会場

久留米商工会館 5階大ホール

3 出席委員（順不同）

委員16名

荒井功委員（会長）、深山和義委員（副会長）、田中功一委員、山田貴生委員、早田耕一郎委員、江頭理江委員、中島誠治委員（穴見英三委員代理）、家永光啓委員、合原久美子委員、古賀晃委員、吉岡マサヨ委員、小松宏吉委員、矢次恵美子委員、山下永子委員、武藤桐子委員、高山美佳委員、

4 欠席者

委員3名

原口和人委員、大森洋子委員、半田啓祐委員

【議事次第】

- 1 開会
- 2 協議事項
(1) 久留米市新総合計画次期基本計画について（答申案）
- 3 その他
- 4 閉会

【配付資料】

- ・第4回総合計画審議会意見への対応 ……資料（1）
- ・パブリックコメント（市民意見募集）の結果について ……資料（2）
- ・久留米市新総合計画次期基本計画 答申書 ……資料（3）
- ・久留米市新総合計画第4次基本計画（答申案） ……資料（4）

議事録要旨

1 開会

- 事務局より、過半数の委員が出席していることにより、規則に基づき会議が成立していることを報告
- 荒井会長より、傍聴希望者について確認 傍聴希望者なし

2 協議事項

(1) 久留米市新総合計画次期基本計画について（答申案）

■事務局より、久留米市新総合計画次期基本計画（答申案）について説明

《質疑・応答》

なし

○荒井功会長

特に質疑等がないことから、久留米市新総合計画次期基本計画（答申案）により、審議会からの答申として市長へ提出する。

3 その他

○荒井功会長

本日は、答申前の最後の審議会であるため、委員の皆様からご意見でも、久留米市へ期待することでもよいので、簡潔に発言をお願いしたい。

○田中功一委員

基本計画の期間は6年間と限られてはいるが、その先の久留米市のまちの姿を示していく計画であり、市民一人ひとりや行政の行動が次の久留米市をつくっていくものである。安全で安心なまちとして、未来に向けて住みやすき日本一への取組を進めてもらいたい。

また、久留米市を取り巻く状況は年を経る毎に変化しており、昨年7月、8月には豪雨災害にも見舞われていることから、特に災害、気候変動に向けての取組に力を入れてもらいたい。これまでのまちづくりは、過去の災害をもとに進めてきたと思うが、近年の災害の状況を見ると、それでは追いつかない状況となっている。当然、新しいまちづくりが必要となるが、人やお金が掛かってくることから、できることから取り組み、これからの子どもたちが安全で安心して暮らせるような久留米市をつくってもらいたい。

○山田貴生委員

多くの専門分野から参加をいただき策定してきた計画だが、どのような計画を策定したとしても、それがしっかりと良い方向に実行できなければ意味がないため、今後、事業計画や個別計画でしっかりと取組を進めてもらいたい。

また、これからの久留米市を鑑みると、子どもや若い世代が元気で活発に活躍できるまちが一番重要であるため、色々な世代の方たちと力を合わせながら、子どもや若い世代が活躍できるまちづくりを進めてもらいたい。

○早田耕一郎委員

基本計画は、具体的な手法ということではなく、市政に関して大きな方針となる計画であり、市政を運営する上で最終的な拠りどころとなるものであるため、しっかりと実行していくことが重要である。また、市政を運営するにあたって迷いが生じたときは、基本計画に立ち返って運営してもらいたい。市議会としても、基本計画を参照しながら、市政をチェックしていきたい。

○江頭理江委員

将来にわたって、子どもがいる家族が住みやすいまちとなるためには、どのようにすればよいかを日々考えているが、様々な問題がある。例えば、教員の働き方の問題があり、現場の教員が疲弊しているのを目の当たりにしている。学校だけではなくて、地域の力で子どもたちをみんなで育てるというカラーが基本計画では出ていると感じている。久留米市全体で子どもたちを育てる、子育てのまちとしての取組を進めてもらいたい。

○山下永子委員

成果指標についての市民意識調査が客観的過ぎるのではないかと感じている。他の自治体では、具体的に市民が主体となる設問が設定されている事例もあることから、次の計画策定時には、もっと市民が主体となるアンケートや指標の設定について議論できたらよい。

また、今回は社会の変化が激しい中での計画策定となったが、しっかりと実行してもらいたい。

○武藤桐子委員

久留米市は魅力に溢れるまちであるため、その魅力をもっと向上させてもらいたい。市民が積極的に協力する地盤もあると感じており、今後の久留米市には非常に期待している。

また、久留米市の市民意識調査について、その結果を研修会として全庁的にフィードバックし、一人ひとりの職員に伝える姿勢は素晴らしいと思う。

○高山美佳委員

久留米市は大変住みやすいまちであるものの、福岡市ほど住みやすさが伝わっていないギャップが、久留米市の魅力の底力ではないかと感じている。基本計画には、水、緑、誇りという言葉が散りばめられており、とても読みやすく心地よい計画となっている。また、久留米市の緑花産業は400年もの歴史があり、古くからSDGsを実践している都市ではないかと考える。剪定枝のリサイクルによる低炭素化などの活動も起こってきているので、緑豊かなどここにもない風景という定住のイメージを鍵として、産業振興や定住、ものづくり、歴史が融合した発信ができればよい。

○小松宏吉委員

基本画は指針のようなものであり、これに付随する各種計画やその実施は、これから始まるものであると考える。計画で終わることなく、その達成に向けてのまちづくりを一緒になって取り組んでいきたい。

○矢次恵美子委員

基本計画に並行して各種個別計画も策定が進められており、基本計画との連動性を持って設計されている。これから市民がいかに当事者として実行していけるか、いかに市民に分かりやすく浸透させていくかが重要である。

○吉岡マサヨ委員

市民一人ひとりがこの計画を目にする機会はありませんと思われるので、広く周知して内容を知ってもらい、久留米市を実感できるような取組を進めてもらいたい。また、この計画をもとに、各種計画が策定されることになることから、今後の取組をしっかりと進めてもらいたい。

○古賀晃委員

パブリックコメントの意見からは人権に関する課題も多く、今後、個別計画に反映されていくものと考えている。

また、子どもの最大の教育環境は教師であるが、学校現場においては職員が疲弊している状況が喫緊の課題となっているので、子どもたちの未来のために是非個別計画での取組をお願いしたい。

○合原久美子委員

子どもの笑顔があふれるまちには、保護者の笑顔があふれ、地域の人々の笑顔もあふれるまちにしていかなければならない。基本計画を市民にどのように浸透させていくかが重要である。特に、子どもに目を向けて、市民が誇れる久留米市となるよう取組を進めてもらいたい。

○家永光啓委員

基本計画の内容を多くの市民へ幅広く周知するとともに、適宜進捗管理を行い、その達成状況を市民に提供していくことが重要である。

○中島誠治委員

商工会議所では、中小・小規模事業者に対する生産性の向上や働き方改革の支援を進めている。来年度は、災害時の事業継続計画の策定支援に取り組む予定としており、このような支援にあたっては、基本計画を活用していきたい。

○深山和義副会長

少子高齢化や経済の停滞、多発する災害などの状況の中、安全安心なまちづくりが求められている。基本計画の具体的な内容を広く市民に理解していただき、住んでよかったと実感してもらえるような取組を進めてもらいたい。

○荒井功会長

これからは、基本計画を市民とともにいかに実効性あるものにしていくかが課題である。

4 閉会

○荒井功会長

長期間にわたり、基本計画の審議を重ねてきたが、こうして答申案をまとめることができたことに対して感謝申し上げます。この審議会は様々な方が参画した会議であり、他の審議会であるようなマーケット主義の会議とは違うところに驚いた。マーケットがうまくいかないところに、行政や政治などの役割があり、それは目に見えるものではないインビジブルハンド、神の見えざる手が働いている。行政や議会、NPOなどがインビジブルハンドであり、この審議会には多く参画いただいております、力強く思った次第である。また、審議では活発な意見もあり、良い答申となったのではないかと考える。これからは、この答申が実のあるものとなるよう、行政、議会、市民が一緒になって取組を進めていくようお願いしたい。

■中島副市長から、閉会挨拶